事前資料３

就労準備支援事業（任意事業）の実績（令和２年 12 月末時点）

＜事業の概要＞

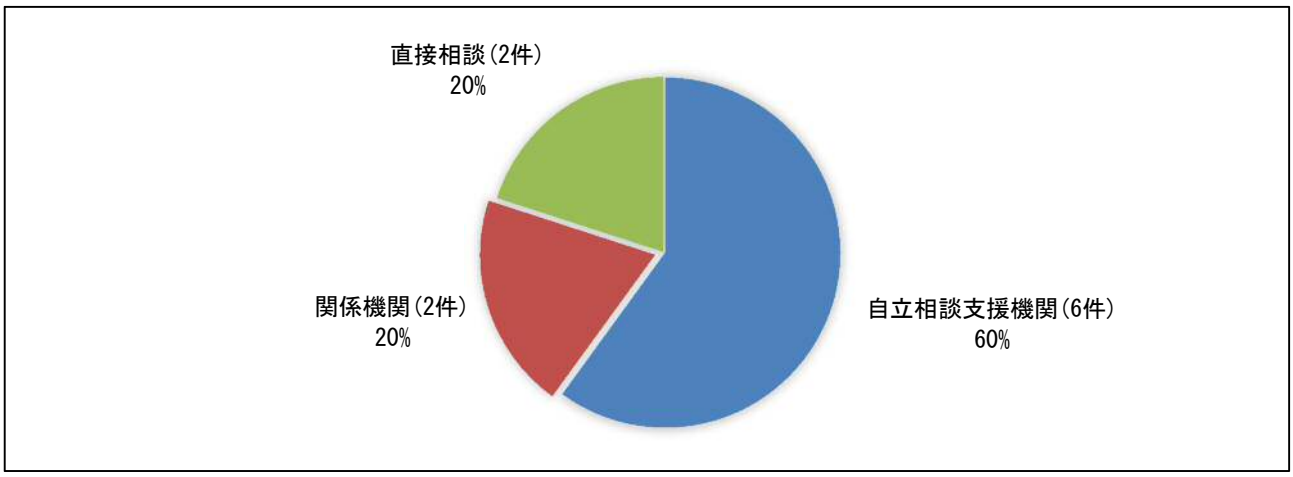
一般就労に従事する準備としての基礎能力の形成を目的として，生活リズムを整える，他者と適切なコミュニケーションを図ることができるようにするなどといった日常生活自立・社会生活自立に関する支援から，就労体験の利用の機会の提供等を行いつつ，一般就労に向けた技法や知識の習得等を促すといった就労自立に関する支援までを計画的かつ一貫して提供します。

１　支援実績

【図表 1】就労準備支援事業利用者に対する支援状況（全４件）

	対象者（年齢 性別）	支援期間	来所 面談	電話 メール	自宅 訪問	他機関 同行等	その他
1	R1-M(20 代 男性)	13 か月	16	23	0	2	1
2	R2-N（40 代男性）	3 か月	5	4	0	2	0
3	R2-M(40 代女性)	2 か月	5	14	0	1	0
4	R2-C(30 代女性)	1 か月	3	3	0	1	1

【図表 2】就労準備支援事業の窓口につながった経路（全 10 件）



緊急事態宣言発令期間中は，自立相談支援機関に相談が殺到しており，本事業の担当者が自立相談支援機関の面談に同席する機会を設けられる状況にありませんでした。そのため，対象者の掘り起こしが十分にできず，結果本事業の窓口へつながった件数も減少しました。（前年度 19 件）

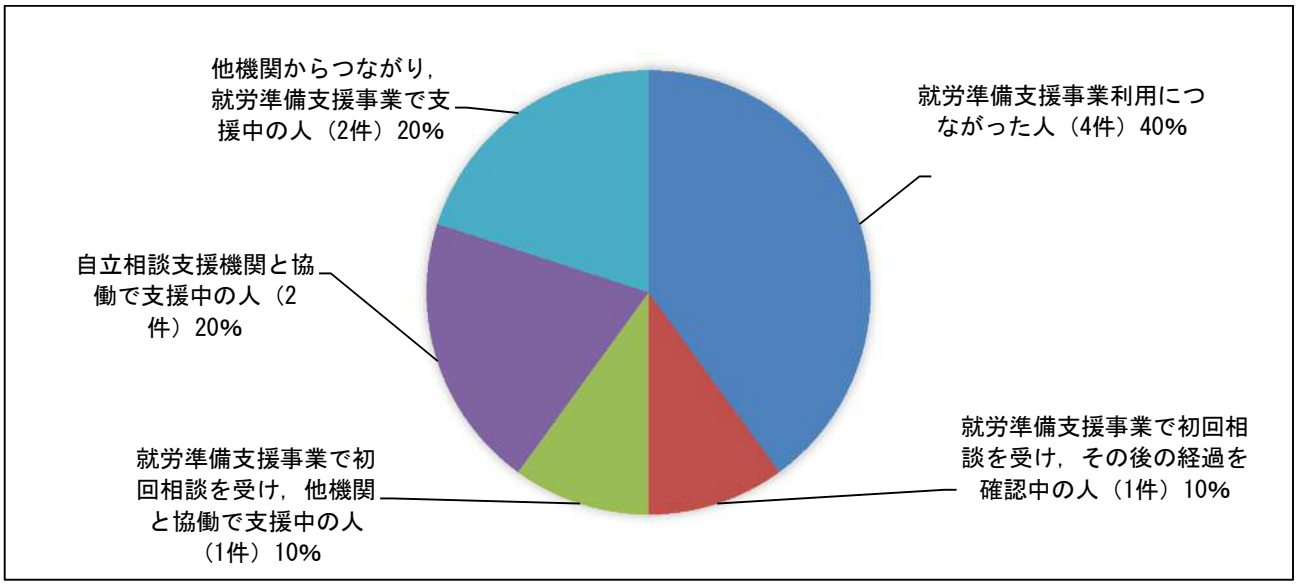
緊急事態宣言解除後は，自立相談支援機関の面談に本事業担当者が，早期から同席する体制に戻り，積極的に対象者へ事業利用に向けたアプローチを行ったことで，本事業利用者が増加しました。（前年度２件）

今年度より，寄ってカフェを毎月開催（4 月，5 月は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）し，チラシ等を見て自らカフェに足を運んで相談に来られた方や，若者相談センターアサガオからの紹介で来られる方がいました。

相談内容を伺い，障がいの診断等がある場合は，阪神南障害者就業・生活支援センター，障がい者相談支援事業につなぎ，つないだ後も本事業と連携し支援することを心がけました。

また，障がい受容が難しい相談者の方には，意思・意向を尊重した関わりに努めました。

【図表 3】就労準備支援事業担当者が関わったケースの分類（全 10 件）



今年度も，近隣の高校，大学，民生児童委員協議会定例会で本事業の周知を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け，困窮状態が顕在化した中で，早期から本事業の担当者が自立相談支援事業に関わるケースを増やすことで，就労支援のニーズに向けた対応や，本事業の利用に至るケースの増加につながりました。

関わりを続けている中で，就労準備支援事業を利用している方の生活基盤をどのように保っていくかという課題が明らかとなり，自立相談支援機関と連携して支援方法を検討していく必要があると感じました。

【図表 4】就労準備支援事業未利用者への支援状況（全 6 件）

	対象者（年齢 性別）	来所面談	電話メール	自宅訪問	他機関同行等	その他	備考
1	R2-T（50 代男性）	0	2	1	0	1	寄ってカフェに来店
2	H30-D(20 代 男性)	0	20	12	0	0	アサガオより（支援継続中）
3	R2-F(20 代 男性)	1	0	0	0	0	自立相談支援事業と協働
4	R2-Y(50 代 男性)	1	1	0	0	0	自立相談支援事業と協働
5	R2-k(30 代 男性)	1	3	0	0	1	寄ってカフェ来店 障がい者相談支援事業と協働
6	R2-J(30 代 男性)	2	2	0	0	0	アサガオより（支援継続中）

寄ってカフェの開催や自立相談支援機関が実施する面談への同席や支援調整会議等への出席，若者相談センターアサガオとの連携により，多様な経路で本事業へつながっています。

支援内容については，本人の障がい受容や健康状態を確認しつつ，臨機応変に支援方針を決定していく必要があると考えています。

２　社会資源の開拓（芦屋社会福祉協議会・阪神南障害者就業・生活支援センターとの連携による）

【図表 5】ボランティア・見学・実習　可能事業所

	事業所名	所在地	内容
1	株式会社ブックサプライ	尼崎市	中古本・ＣＤ・ＤＶＤのピッキング等
2	山澤工房	西宮市	スーツケースの解体
3	あしや温泉	芦屋市	館内清掃
4	社会福祉法人 三田谷治療教育院	芦屋市	草花の手入れ・水やり　野菜作り
5	就労支援カフェ CACHE-CACHE(カシュカシュ)	芦屋市	喫茶作業
6	就労移行支援事業 ワークホームつつじ	芦屋市	作業補助
7	ＮＰＯ法人 日本レスキュー協会	伊丹市	犬の世話　事務作業等
8	ウェルネットさんだ	三田市	農業体験
9	婦木農園	丹波市	農業体験・酪農体験（合宿も可）
10	山村ロジスティクス	西宮市	食品等のピッキング
⑪	エルホーム芦屋	芦屋市	グループ活動体験（花壇のお世話,庭掃除）
⑫	株式会社プランツ・キューブ	芦屋市	軽作業・パソコン操作
⑬	株式会社ポップ・アイディー	芦屋市	パソコン作業

＊No11，12，13 は，今年度新規開拓した事業所

今年度，エルホーム芦屋において，本事業利用者のボランティア体験と職場見学の受入れ，株式会社ポップ・アイディーにおいて，就労体験の受入れを行っていただきました。今後も事業所の開拓と事業所における就労体験等の実施を進めていきたいと考えています。

３　対象者の状態像に対応できる支援メニューの多様化について

【図表 6】パソコン講習

	項目	内容
1	機器使用方法	機器の立ち上げ，利用方法等初級コースから指導
2	ソフト基礎学習	Word の文書作成・表作成，Excel の表作成・数式の理解，PowerPoint 利用のプレゼン等社会で最も必要なソフトの基礎学習
3	求人の検索 職業の選択	デスクワーク業務について，インターネットによる仕事探し等対象者の希望と能力に近い就労対策を実施
4	オンラインツールの活用	オンライン面談やオンライン面接に向けての練習で ZOOM を活用

【図表 7】グループセッション プログラム（ピアサポート活動）

開催月	テーマ	詳細
4	実際に働いている人の話を聞こう	在職者（ピア）の話を聞き,交流することで仕事のイメージを持つ
7	新型コロナウイルス感染症拡大の防止について	新型コロナウイルス感染症拡大防止について様々な場面での予防方法を学ぶ。
9	職場体験時に注意すること	在職者（ピア）の話を聞き，注意することを体験を通して学ぶ。
10	職場での挨拶について	実際にロールプレイング形式で挨拶を行いながら振り返りをする。
11	人への伝え方について①	職場での場面ごとの挨拶についてロールプレイング形式で学ぶ。
12	人への伝え方について②	今年の振り返り,年末年始の挨拶について学ぶ。

＊新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため 5 月，6 月，8 月は中止

【図表 8】就労サロン（毎月 1 回）

目的	参加者が職場での体験や悩みごとなどを自由に発言し，参加者同士で体験を共有し，共に考えながら互いに支え合い，励まし合う場とする。また，参加者同士の交流によって，働く意欲が高まり，より充実した職業生活を送れるよう，本会を一歩踏み出す飛躍の場としたい。
対象者	阪神南障害者就業・生活支援センター利用者，就労準備支援事業利用者
その他	医師・カウンセラーを外部講師に招き，質問会を実施。

＊新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため 4 月，5 月，6 月，8 月は中止

＊12 月は ZOOM を活用してオンラインで実施

【図表 9】面接練習（毎月 1 回）

目的	利用者が求人に応募の際の面接の練習等を行う場とする。
対象者	阪神南障害者就業・生活支援センター利用者，就労準備支援事業利用者

＊新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため 4 月，5 月，8 月は中止

＊12 月は ZOOM を活用してオンラインで実施

4　周知・啓発

自立相談支援機関や本事業で支援している中高年齢層でひきこもりの状態にある人は，学齢期から何らかの生きづらさを抱えていた人が多い傾向にあります。早い段階から本事業の担当者が関わる事に意義があると考えています。

昨年度と同様に，就職前の高校・大学の該当者に対し，在学中から自立相談支援事業や本事業を知ってもらい，卒業後(中退含む)の支援につながることができるよう，学校に本事業を認知してもらうことを目的に，高校及び大学(市内 3 校，市外 2 校)を訪問し，進路担当者等へ事業の案内を行いました。今後も継続して取り組んでいきます。

また，民生児童委員協議会定例会において，本事業の説明と活動報告をし，地域に対象者がいる場合につないでもらえるよう周知・啓発を行いました。

５　成果と課題

(1)　成果

ア　地域での居場所・役割について

今年度から市内の地域活動支援センターの協力を得て「寄ってカフェ」を毎月開催し，延べ 15 名の利用がありました。（新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため 4 月，5 月は中止）

他機関へのつなぎを必要とする相談者も多く，他機関と連携する場面が増えました。

相談窓口には足を運びにくいが，寄ってカフェは気軽に行くことができるという声もあり，今後も継続して実施していきたいと考えています。

イ　周知・啓発について

自立相談支援事業担当者と近隣の高校や大学へ訪問し，学校側に本事業の対象者像や支援内容の説明を行い，本事業を認知してもらうことに努めました。また，民生児童委員協議会定例会で，研修会を開催し，事業内容や活動報告等，事業の周知を行いました。今年度も，社会資源の開拓を行い，ボランティアや見学，実習の受入れ協力先として，３企業と協定を結びました。

ウ　就労支援について

本事業利用者の 4 名のうち，就労している方には定期的な面談（オンライン面談含む），電話にて職場の悩みや仕事への不安に対して助言を行い，就労定着支援を行いました。

今年度は，事業利用者の就労体験として，連携先の企業とオンラインを通じた体験実習を実施することができました。企業の実習担当者と本人の間に支援員が入ることで，本人の強みや苦手とすることなどを事前に企業側と調整することができ，今回は本人の強みであるパソコンスキルを活かした実習内容となっています。

就労していない方については，定期的な面談（オンライン面談含む）に加えて本人の意思や希望を尊重しながら，ハローワークへの同行支援，職場見学や体験実習を実施しました。

エ　相談支援体制の機能強化について

自立相談支援機関，他機関との連携強化を図り対象者の把握に努めた結果，現段階では就労準備支援事業の利用が難しい方に対して，他機関へつなぎや連携して支援する機会が増えました。

今後も関係機関への周知・啓発を行い，相談者にとって有益になるような支援のネットワークを広げていけるよう体制づくりに努めていきます。

オ　コロナ禍での支援について

可能な範囲で電話やメールでの支援を行い，対面での面談を希望するの場合は，感染症対策を行った上で実施しました。インターネットの環境がある対象者とは，一緒に操作方法を学びながらZOOMを活用してオンラインでの面談を実施しています。

(2)　課題

ア　地域での居場所・役割について

寄ってカフェを開催している中で，窓口には足を運びにくいがカフェには相談に来られるという方がいる一方で，ひきこもりの当事者やその家族が来られるケースは少ない状況にあります。

また，上記の課題とあわせて，コロナ禍でのカフェの開催について，今後オンラインでの実施を検討しており，対面以外の開催方法において工夫が必要であると感じています。

イ　周知・啓発ついて

就職前の学生へアプローチするため，高校・大学における本事業の対象者数の把握や，対象者及び学校側のニーズを把握するため，近隣の高校・大学へ定期的な訪問を行い，情報交換や連携を行っていきたいと考えています。

また，対象者へ事業説明等をする際に，事業利用へ理解を得られやすいよう，本事業のリーフレットに支援内容や就労支援プログラムを掲載する等，事業の見える化を行う必要があると考えています。

ウ　就労支援について

既存の就労支援プログラム，体験実習等の活用実績が少ないため，対象者の希望やニーズを調査し，その方に応じた就労支援プログラムの活用，体験実習の実施を行っていきたいと考えています。

エ　相談支援体制の機能強化について

自立相談支援機関の支援対象者に対して，初期段階から面談に入り，4件が本事業の利用につながりました。本事業の利用に至っていない支援対象者に対しては，本事業のメリット等を適切に伝え，事業利用者の増加に努める必要があると考えています。

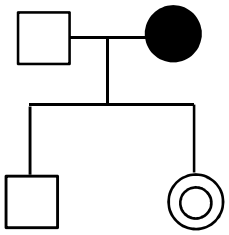
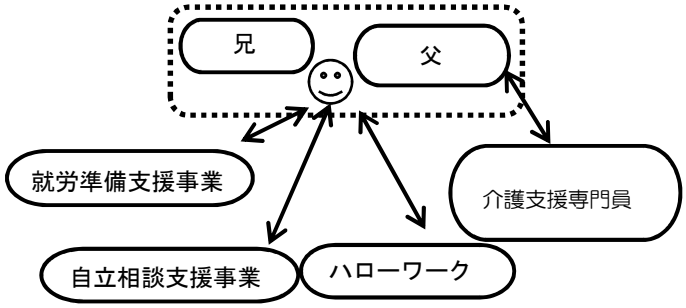
また，自立相談支援事業の就労支援と就労準備支援事業の就労支援で，制度の趣旨等役割が異なる部分はありますが，自立相談支援機関と協議を重ねながら，一緒に就労全般を担っていくことができればと考えています。

オ　コロナ禍での支援について

対面での支援が難しい状況における支援方法として，電話やメールに加えて，オンラインでの面談，面接練習，就労セッションなど，個々に合わせた方法で支援を実施していきたいと考えています。

事例２『就労準備支援事業利用事例』

●事例の概要
本人…40 代女性。高校卒業後無職。父，兄と同居。兄は在宅で仕事をしている，父は高齢。 母の生前，母は兄と折り合いが悪く，本人・父と兄は関係が良好であったが，母が亡くなる少し前より，兄が父に攻撃的な態度をとるようになり，そこから本人と兄の折り合いも悪くなった。

●ジェノグラム	●エコマップ
	

●インテーク・アセスメント時の本人の課題
【生活歴等】 ・ひきこもりの経験があり，高校卒業後は親戚の会社でピッキング作業の仕事に就くが 2 か月で退職。 ・兄との折り合いが悪く，兄からは早く家を出て行って欲しいと言われている。 ・夜は不安で眠れなくなり，深夜に就寝し，午前 10 時半頃起床している。 ・仕事に就いて家を出たいが，働いた経験がほとんどないため，どうすれば良いかわからない。 ・情報は，身内から聞く，またはインターネットから得ている。

●支援の方向性
・就労に向け，基礎となる日常生活リズムの改善，心療内科等への通院について確認する。 ・生活基盤を整えながら，社会資源（ハローワーク等）を活用した求職支援を行う。 ・職場見学を行い，実際の職場のイメージをもつ。 ・家族関係の把握と日々の出来事の確認を行う。

●支援経過	●支援プラン
R2.9 中旬　初回面談。本人より意向を聞き，本事業の支援プランを作成する。 兄と折り合いが悪く「家を出たい」と話され，「そのために早く仕事を探したい」と伺う。ハローワークについて説明すると行ってみたいと希望される。 夜眠れないとのことで，心療内科への受診の有無を確認する。以前に通院しようと行ってみたが，先生との相性が合わず結局行けていないとのこと。眠れない日がこれ以上続くのであれば行ってみますと話される。	・定期面談 ・生活リズムを整える
R2.9 下旬　本人とハローワークへ訪問。ハローワークで登録を済ませ，求人検索を行う。気になる職種を見つけ，印刷することはできるが応募には踏み切れない様子。 ハローワークの担当者と一緒に，これまでの経歴について振り返り，履歴の作成から始めたが，その場で履歴書は完成せず，次回続きを作成することとなった。 心療内科には受診することができ，現在睡眠薬を服用中。	・定期面談 ・履歴書作成 ・ハローワークに行く

●支援経過	●支援プラン
R2.10　9月に作成途中であった履歴書を本人と完成させる。志望動機等については思い浮かばないながらも，興味のあることを思い浮かべながら完成させることができた。	・履歴書作成 ・就職活動に取り組む
R2.10　本人より面接に対して不安である相談を受け，支援員と模擬面接を実施する。模擬面接を受けて，質問に対する返答を考えることができたとのことで，不安が和らいだ様子。気になる求人が複数出てくるも応募には至らず。求人情報は，主にインターネットから得ており，仕事の内容を見て，「自分には無理そう」，「責任がある仕事は難しい」と話され，「“仕事”というものにイメージが沸かない」と話される。	・定期面談 ・履歴書作成 ・面接練習 ・就職活動に取り組む
R2.10　本人より「仕事へのイメージが沸かない」という相談を受けて，支援員と本人で意向を確認しながら，職場見学を実施する。本人が求人検索で興味を示していた職種の，求人募集のある施設を見学する。見学後，本人より「大変そうですね」と感想があった。	・職場見学に行く。 ・就職活動に取り組む
R2.10　本人からの定期面談や電話での相談内容が，仕事より家族のことが多くなっている。兄との関係が悪化すると，就労して家を出たいという思いが強くなる様子。兄との関係が落ち着いていれば，就労に対して焦りはあるが，行動には移しづらいことを話される。そのような状態は本人にとってもつらい様子。	・定期面談
R2.11　本人より，兄から求職活動が進んでいないことを責められ，家出をしてホテルに宿泊しているとの連絡あり。しばらく家には帰れそうにないとのこと。	・定期面談 ・電話連絡
R2.11　本人と家族の関係が悪化し，求職活動をする余裕がない様子であるため，定期的に近況確認を行うことにする。 その後，本人より一度家に帰ることができたと連絡を受ける。自立相談支援機関の相談員とも情報共有し，今後の支援方法について検討する。	・電話連絡
R2.12　家族関係に変化はないが，本人より自立に向けて，「求人に応募してみます」との発言あり。まずは一歩を踏み出していく気持ちになったと話される。	・定期面談

●支援の効果

・支援員の支援方針と，本人の考えや思いに差異が生じ，本人が離れていきそうになった際に，自立相談支援機関の相談員に介入してもらい，信頼関係を修復することができた。

・本人の中で，仕事に対してのイメージや就労に至るまでの流れを描けるよう，職場見学や模擬面接を実施した。

・現状，家族関係を改善することは困難であると思われるが，どのような状況になっても本人が孤立しないよう，支援員の存在を本人に示し，つながりを続けた。

●支援を通じた地域課題等

・経験不足や自信がないことによる不安について，軽減させるための支援方法に苦慮した。また，挑戦しやすい環境づくりが必要であると感じた。

・対象者のように無職のまま年齢を重ねている方には，周囲からの視線等により本人の自尊心を傷つけない関わり方が必要であると感じた。支援員の問題だけでなく，将来的に受け皿となる地域課題でもあると感じる。